

国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) について
 International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields (INWEPF)

鷲野健二、○森哲治、日比絹子
 Kenji Washino, ○Tetsuharu Mori, Kinuko Hibi

1 国際水田・水環境ネットワークの概要

2003年3月、農林水産省は、国連食糧農業機関（FAO）と共催で、第3回世界水フォーラム（京都）の一環として、世界各国の農業担当大臣が参加する「水と食と農」大臣会議を開催した。同会議では3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」及び「パートナーシップ」を掲げた大臣勧告が採択された。

2004年11月、これら3つのチャレンジの達成に向け、日本（農林水産省）が中心となり、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施している国¹及び国際機関が参加する「国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）」を創設した。INWEPFは、水田農業に関わる政府関係者等が、知識と経験を共有し、水田農業発展のために国際的な議論を行うフォーラムである。INWEPFの活動は大きく、①技術的・政策的な講演を行う「シンポジウム」、②概ね年1回開催して活動方針等を決める「運営会議」、③各テーマに沿って作業・議論を行う「ワーキンググループ（WG）」の3つにより構成される。我が国はこれまで、世界水フォーラム等の関連国際会議での情報発信を念頭に、WGの活動を通じた成果づくりをリードしてきた。WGの戦略（テーマ）は、その時節における国際的な課題に合致するように幾度か改編がなされている。現在の第6フェーズ戦略では、図に示すように、我が国はWG3のリーダー国として、水利用効率・水生産性の向上を考慮した政策・技術についての議論を進めている。

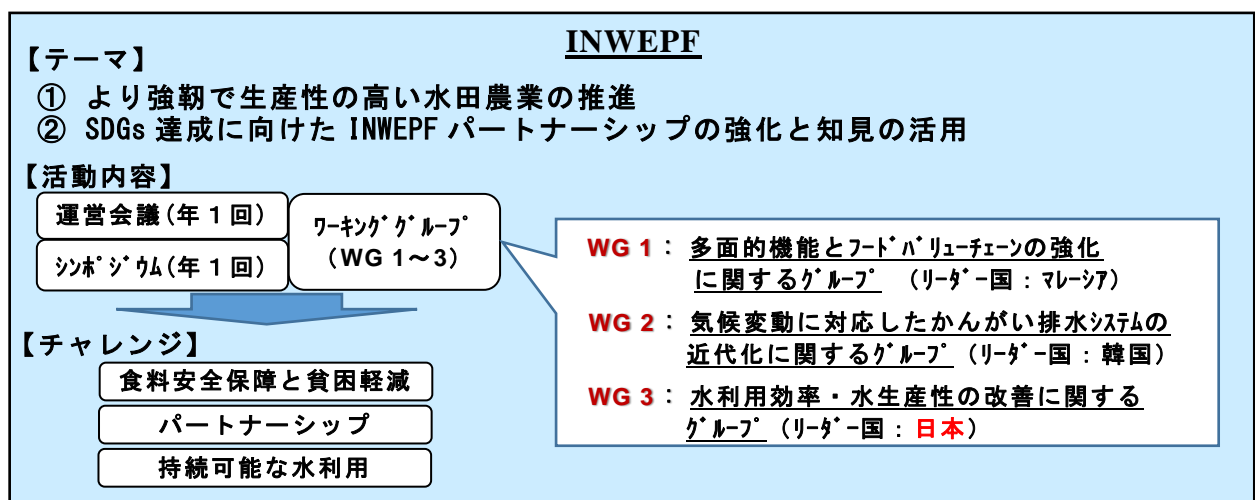


図 INWEPF 概要図

¹ 2023 年末現在、17ヶ国が INWEPF メンバー国：バングラディッシュ、カンボジア、中国、エジプト、インド、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナム

2 第18回 INWEPF 運営会議の開催

2023年8月28日、29日に、エジプト・カイロで第18回 INWEPF 運営会議が開催され、7か国²とFAO及びメコン河委員会（MRC）の代表者が参加した。同運営会議では、次の3点に関する議論が行われた。

（1）第6フェーズの年間行動計画について

日本から、第6フェーズ（2021-2024）の年間行動計画（2023-2024）については、従来の計画を継続すること、2024年5月に開催される第10回世界水フォーラム（WWF10）において、INWEPFの取組について情報発信していくことを提案し、合意された。

（2）第19回運営会議の開催について

第19回運営会議を主催するタイから、11月にパタヤで開催することを提案し、合意された。

（3）ワーキンググループ（WG）会議について

3つのWGに分かれた会議では、日本はWG3のリーダー国として、水田の水利用効率に関する議論を主導した。

3 第10回世界水フォーラム（WWF10）での情報発信

2024年5月20日から25日にインドネシア・バリで開催されたWWF10には、160か国から約64,000人が参加し、農林水産省農村振興局は、水田農業における水利用の重要性を発信するため、テーマ別プロセスセッションでの発表、日韓共催によるパラレルイベント（WG2及びWG3ワークショップを含む）の実施、日本パビリオン展示ブースへの出展等を行った。

テーマ別プロセスセッションでは、UNESCOとともにサブテーマ「自然を基盤とした解決策（NbS）／生態系の保護と回復による水供給の改善」のコーディネータを担当し、松下滋賀大学教授及び乃田岐阜大学准教授が、水田の多面的機能（グリーンインフラ）とかんがい施設（グレーインフラ）の連携の重要性等について発表した。パラレルイベントでは、INWEPFの枠組みにより、水田農業の水利用効率や気候変動対応に関するワークショップを開催し、日本（松下教授、乃田准教授、農林水産省）、インドネシア、韓国、FAOが取組事例等を発表した。日本パビリオン展示ブースでは、ポスター掲示、パンフレット配布、日本のかんがい技術に関する紹介動画の上映、日本産米製品（煎餅）の配布等を行い、水田農業の水利用の重要性に関する情報を発信した。

4 2024年のINWEPF活動

2024年11月5日から7日に、タイ・パタヤで第19回 INWEPF 運営会議の開催が予定されており、第7フェーズ（2024-2027）のテーマ設定、各WGの活動報告や次回運営会議に向けた活動計画等について、メンバー間で相互に確認することとしている。

農村振興局では、水田農業の持続的な発展に向け、引き続きINWEPFの活動をリードし、世界水フォーラム等関連会議のほか、水に関係する国際会議の動向を注視していくとともに、学識経験者のご支援を頂きながら、必要な情報発信を行っていく。

²（対面）エジプト、日本、韓国、（オンライン）スリランカ、タイ、フィリピン、インド